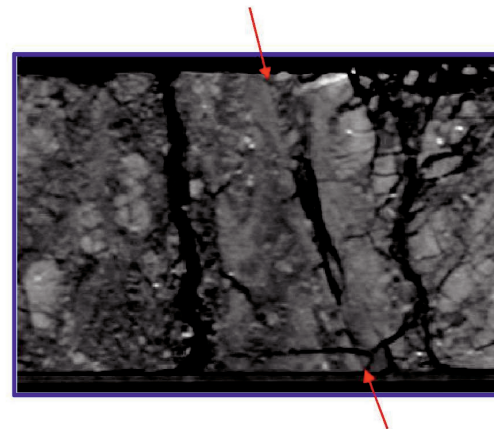
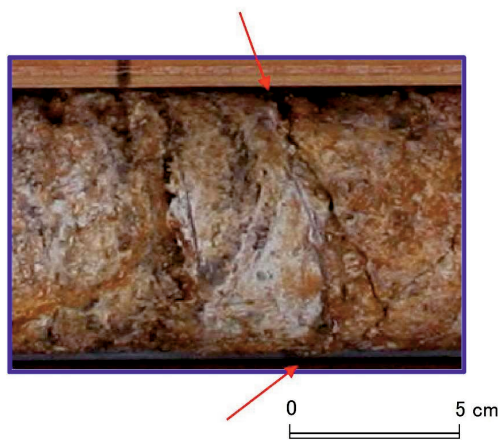
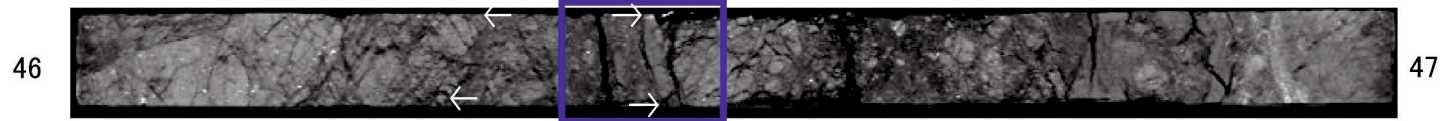


H24-D1-1 深度45.91~48.28mについて 破碎帯範囲を45.91~45.94m (No.最-3) , 46.30~46.45m (No.最-5) 及び47.64~47.75m (No.最-7) に変更

コア写真



CT画像

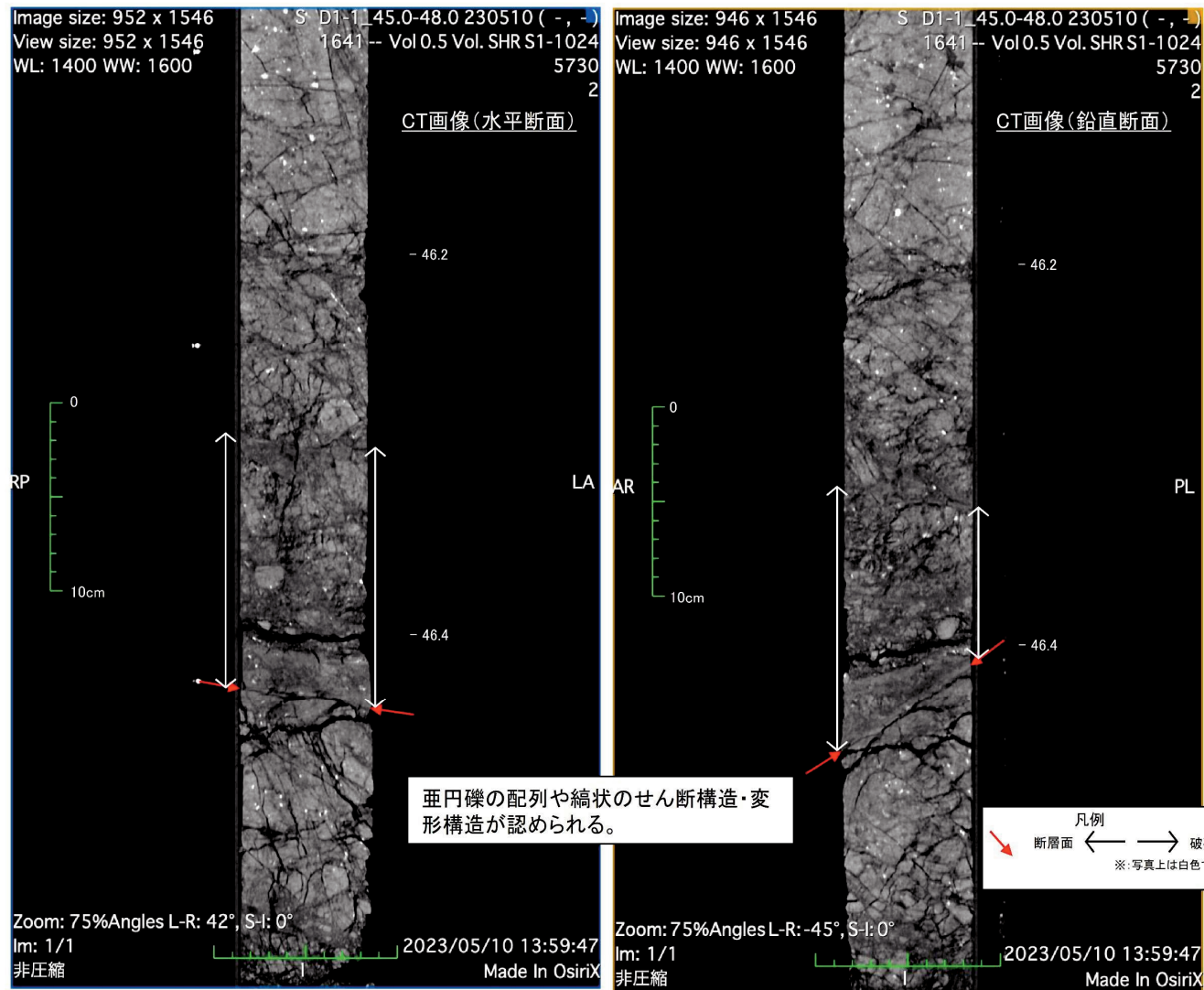


深度46.30~46.45m  
 亜円礫の配列や綫状のせん断構造・変  
 形構造が認められる。

凡例  
 ← → 破碎部範囲※  
 ※:写真上は白色で記載  
 ↓ 断层面

第7.4.4.248図 (6) 破碎部性状 H24-D1-1 深度46.00~47.00m (CT画像による評価 (2/4) )

H24-D1-1 深度45.91~48.28mについて 破碎帯範囲を45.91~45.94m (No.最-3) , 46.30~46.45m (No.最-5) 及び47.64~47.75m (No.最-7) に変更



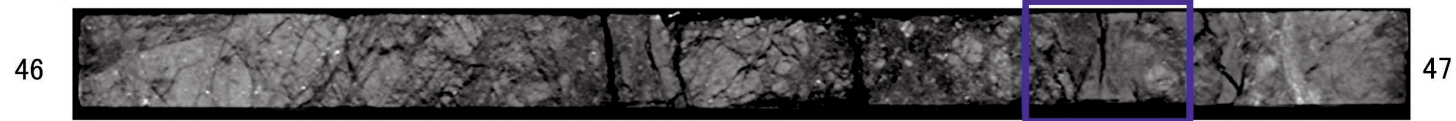
第7.4.4.248図 (7) 破碎部性状 H24-D1-1 深度46.00~47.00m (CT画像による評価 (3/4) )

H24-D1-1 深度45.91~48.28mについて 破碎帯範囲を45.91~45.94m (No.最-3) , 46.30~46.45m (No.最-5) 及び47.64~47.75m (No.最-7) に変更

コア写真

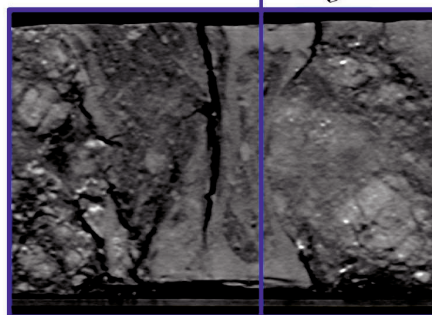


CT画像

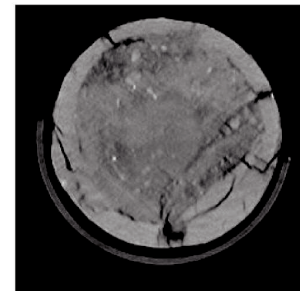


断面線A

Look  
断面の観察方向



断面線Aでのコア断面画像



0 5 cm

深度46.77~46.79mの細粒部は、内部には連続せずコア表面にのみ分布している。  
細粒部は掘削時のコアの供回りによる付着物である。

第7.4.4.248図 (8) 破碎部性状 H24-D1-1 深度46.00~47.00m (CT画像による評価 (4/4) )



H24-D1-1 深度45.91~48.28mについて 破碎帯範囲を45.91~45.94m (No.最-3) , 46.30~46.45m (No.最-5) 及び47.64~47.75m (No.最-7) に変更

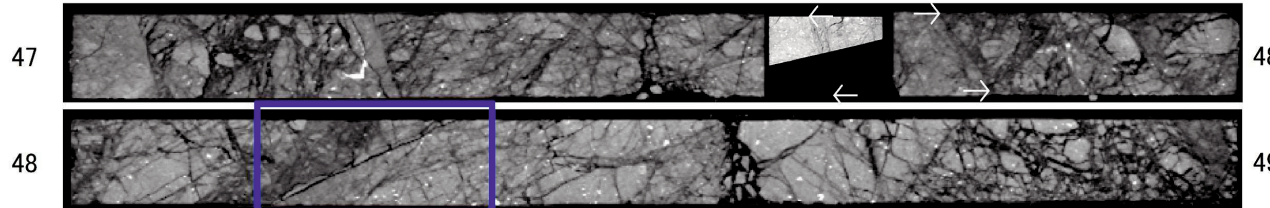
<CT画像観察結果>

- ・深度47.64~47.75m破碎部, その周辺は破碎部相当箇所なし。
- ・深度48.00~49.00m間に破碎部相当箇所なし。

コア写真



CT画像

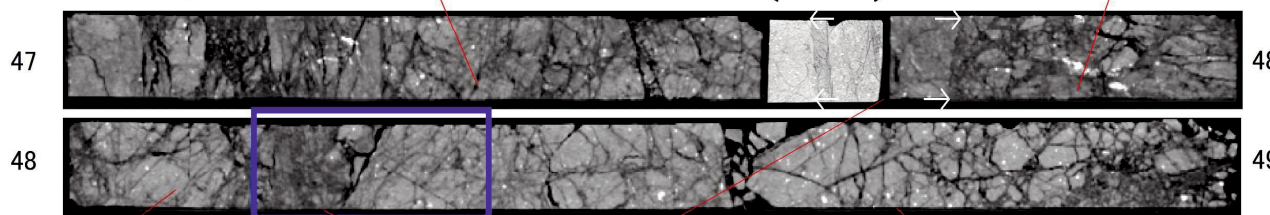


角礫状を呈し、基質の密度が低い部分には規則的な節理が認められる。亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない。

角礫状を呈し、基質の密度が低い部分には規則的な節理が認められる。亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない。

研磨片作成範囲

CT画像(側面)



均質で、角礫状を呈する部分には規則正しい節理が認められる。亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない。

深度48.20m~48.28m間は、細粒化した低密度帯が認められるが、境界面に凹凸が認められ、直線性に乏しい。

深度47.64~47.75m間は、亜円礫の配列や縞状のせん断面・変形構造が認められる。

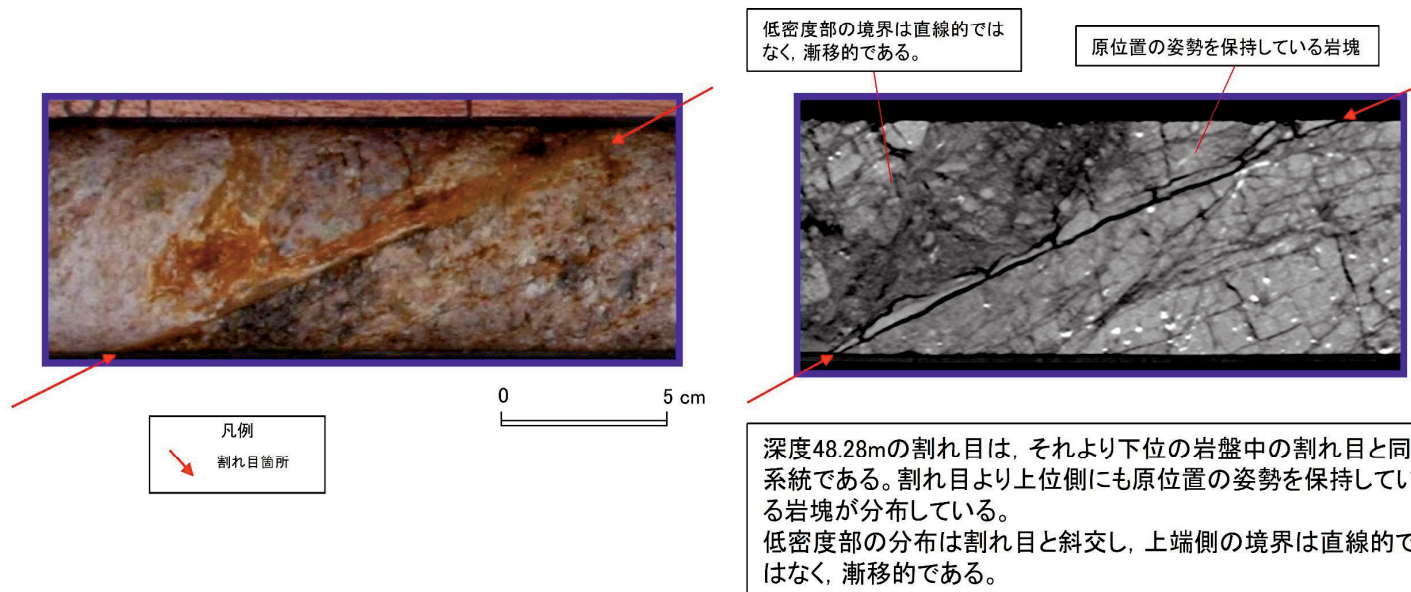
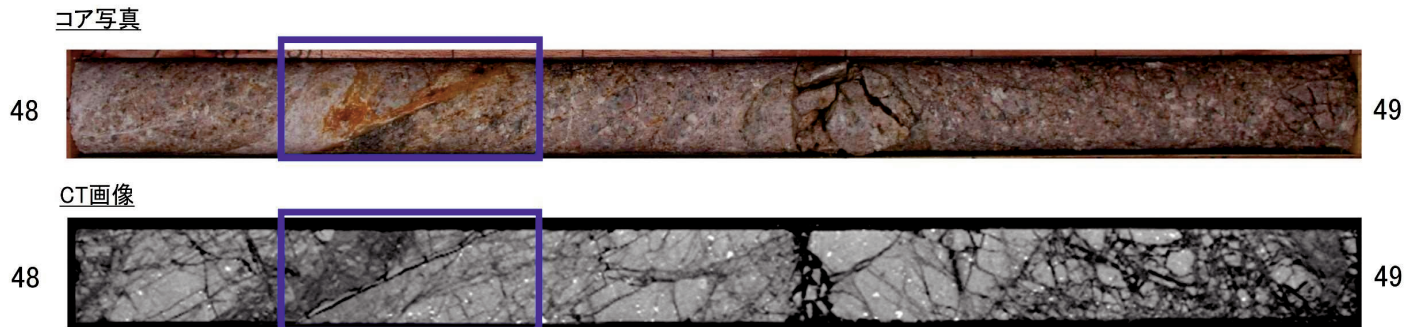
均質で、角礫状を呈する部分には規則正しい節理が認められる。亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない。

凡例  
← → 破碎部範囲※  
※:写真上は白色で記載

第7. 4. 4. 248図 (9) 破碎部性状 H24-D1-1 深度47.00~49.00m (CT画像による評価)

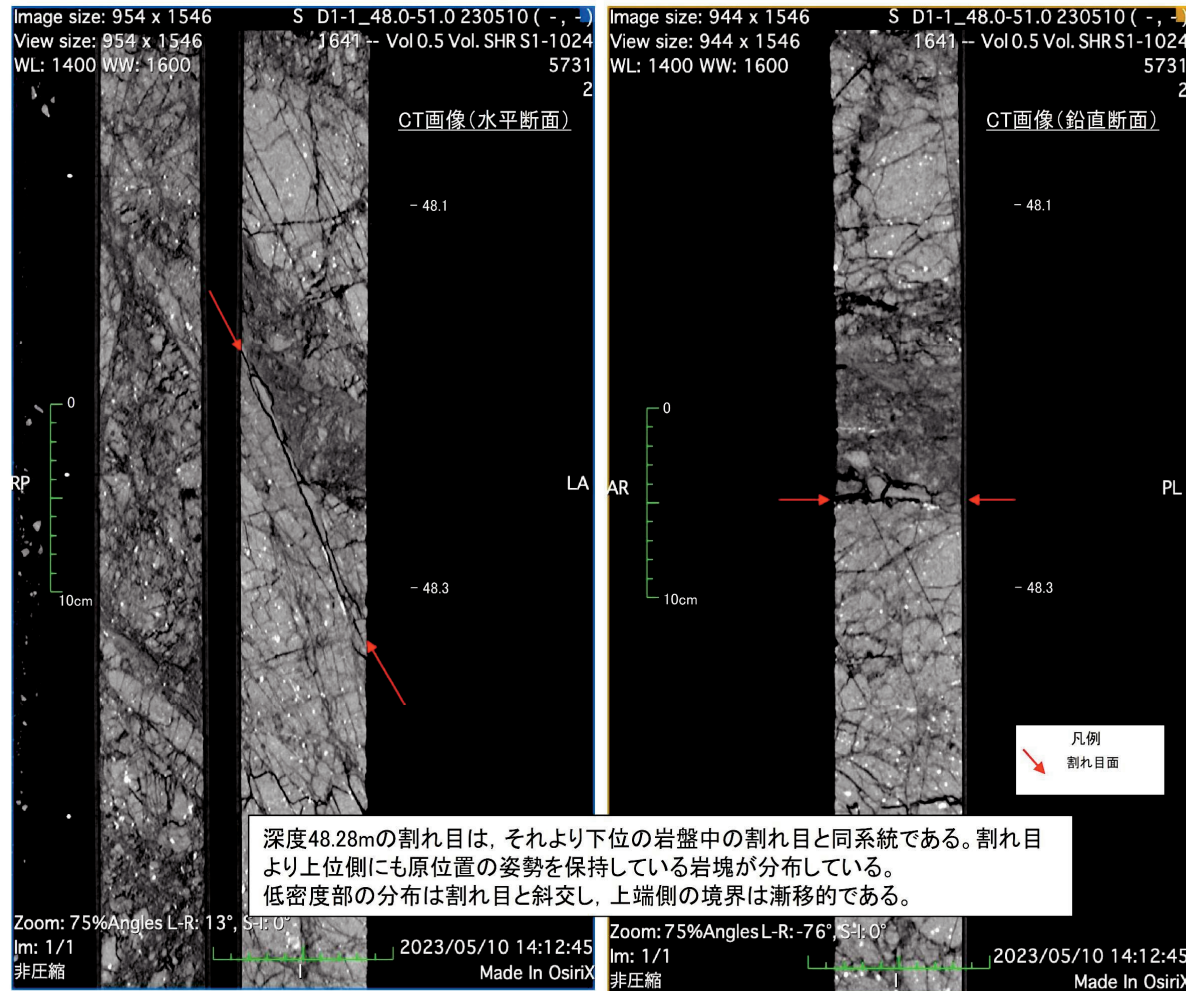


H24-D1-1 深度45.91~48.28mについて 破碎帯範囲を45.91~45.94m (No.最-3) , 46.30~46.45m (No.最-5) 及び47.64~47.75m (No.最-7) に変更



第7.4.4.248図 (10) 破碎部性状 H24-D1-1 深度48.00~49.00m (CT画像による評価 (1/2))

H24-D1-1 深度45.91~48.28mについて 破碎帯範囲を45.91~45.94m (No.最-3) , 46.30~46.45m (No.最-5) 及び47.64~47.75m (No.最-7) に変更



第7. 4. 4. 248図 (11) 破碎部性状 H24-D1-1 深度48.00~49.00m (CT画像による評価 (2/2) )

H24-D1-1深度47.64~47.75mの破碎幅 (No.最-9) を変更

- 従前の破碎帯範囲における最新活動面を含む破碎部①-3について、破碎帯範囲の見直し後の破碎幅10.8cmに変更した。

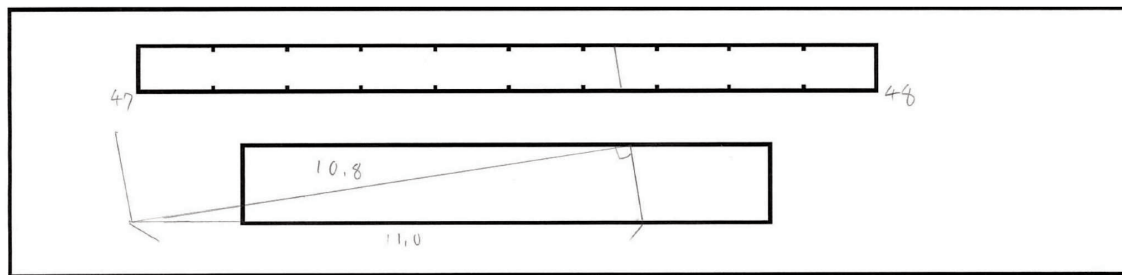
破碎幅算出資料(H24-D1-1 深度47.64~47.75m)

- 破碎部の区間長が長く、破碎幅を実測できないことから、図化した資料から算出した。
- 算出した破碎幅は10.8cmである。

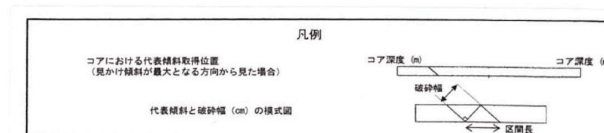
コア写真



凡例  
 ← → 破碎部範囲※  
 ※:写真上は白色で記載  
 代表傾斜取得位置



破碎幅算出図





**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・最新活動面の深度を60.15mに変更 (No.最-10)

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

・断層ガウジの幅を0.2cmに変更 (No.最-11)

【理由】破碎部中にある2箇所の断層ガウジの幅の合計値に変更

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更 (No.最-10)

b 性状一覧表の断層ガウジ・断層角礫の幅を0.2cmに変更 (No.最-11)

c 性状一覧表のコア写真上で断層ガウジを示すカラーバーを変更 (No.最-11)

d ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更 (No.最-10)

e 最新活動面の深度を「60.15m」に変更 (No.最-10) (ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし)